

しば子先生の

ミニミニ芝生教室

第122回 スティンプ



生徒：梅雨が短くて急に暑くなりましたね・・・
先生：異常気象が普通になってきたわね・・・
生徒：ベントグリーンが心配ですね・・・
先生：そうね・・・肥料や資材の価格も上がってきたし、人件費も上がる一方だろうからきちんと科学的アプローチで無駄無く確実な管理を目指さないといけない方向に行ってしまうわね・・・

生徒：本当にそうですね・・・

先生：さてカタビラ退治も問題なく対応できるようになったからもう少し上に行くように話を進めましょう・・・

生徒：カタビラも無く暑さにも負けないグリーンができれば次は・・・

先生：パッティングクオリティでしょう・・・

生徒：なるほど・・・

先生：トーナメントでは球の転がるスピードとかよく話題にされるけど基本の管理は同じね・・・まずベントグラスが常に健全な生育をできるように最高の管理条件をそろえること・・・それに加えてグリーンのスピードを求めるという事ね・・・

生徒：よく肥料を切れば早くなると言われますけど・・・

先生：昔は管理方法や知識がしっかりと確立されていなかったから肥料を切って芝生が死にかけているような状態にして玉の抵抗をなくして早くさせていたわね・・・でもそんなやり方では今の気候条件ではあつという間に芝が枯れてしまうわ・・・

生徒：そういえば以前グリーンスピードと窒素肥料の関係で『4インチ理論』(第51回)というのをやりました・・・

先生：しっかり覚えているわね・・・年間窒素施肥量を**5g増やす**ことによりグリーンのスピードが平均4インチつまり**1/3フィート遅くなる**という試験結果ね・・・

生徒：そうでした・・・つまり年間**15g窒素施肥量が増えて1フィート遅くなる**ということですね・・・かなりの窒素量です・・・

先生：そう・・・思っているほど現実には窒素肥料でグリーンスピードは遅くならないということ・・・むしろ窒素肥料不足で芝生の抵抗性が下がることの方が大問題だと

《スティンプメーターの使い方》

- 1) 用意する物 (スティンプメーター・ゴルフボール3つ・ティー3つ・メジャー・記録紙)
 - 2) なるべく平らなエリアを探す (約1m×約3.6m)
 - 3) スタート位置にティーを刺す。スティンプメーターの端をティーの位置に置きノッチに玉を置いて徐々に持ち上げ、ゴルフボールが転がり出したらそのまま止めて玉を転がす。玉が止まったところにティーを刺す。それを三回行う。ティーとティーの距離を測る。
 - 4) 三つの玉同士が20cm以上離れているときはスティンプメーターの扱いがうまく行われていないか、芝表面に何か問題があるので玉同士の誤差が20cm以内になるように修正してやり直す。修正できたら3つの玉の転がった距離を測りその平均を出す。
 - 5) 玉が止まった位置から今度は逆の方向に同じ事をやってそれぞれの距離の平均値同士の平均を出す。これがグリーンスピードとなる。
 - 6) グリーンのアンジュレーションが厳しくて十分に平らなエリアがとれないときはスティンプメーターの裏側の2xのノッチを使って測り2倍する。
- 【1フィート (30cm)=12インチ (1インチ=2.5cm)】

言うことをこの「**4インチ理論**」は言わんとしているのよ・・・アメリカでは『**スピードキル**』という言葉があって、これはグリーンのスピードを求めすぎて芝生を枯らしてしまうことを言うのよ・・・

生徒：なるほど・・・難しい問題なのですね・・・

先生：では改めてグリーンスピードについて考えてみましょう・・・常識だけどグリーンスピードを測る道具は何か知ってる？

生徒：ハイ・・・誰でも知ってる「スティンプメーター」です・・・

先生：正解・・・では誰が発明したか知ってる？

生徒：えっ？・・・まさか・・・スティンプさん？

先生：おしいわ・・・正解は「エディー・スティンプソンさん」・・・この人が1937年に発案した物なのよ・・・でも実際に広く普及したのはUSGAのグリーンセクションがこれを採用して現在の形にした1970年代と言う事みたいね・・・使い方はみんな知っていると思うけど良く確認して正しく測らないとね・・・そしてこのスティンプメーターの普及のおかげでグリーンの速さについての研究も一段と深まったわ・・・次回はその研究成果を説明しましょうね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

